

第5学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 松永 庸助

1. 単元名 「わたしたちの大蔵川」 ～大蔵川 大研究～

2. 単元について

児童の実態（児童観）

本学年の児童は、第4学年の総合的な学習の時間において、「大蔵にしかない素敵な人」をテーマに学習を行ってきた。大蔵の素敵な人との関わりや、協同的な学習を通して、大蔵には素敵な人がたくさんいること、大蔵の「ひと・もの・こと」と自分の生活とが密接に関わっていることに気付くことができた。

大蔵川については、第1学年で川遊びをし、第2学年生活科「とびだせ！大くらたんけんたい」の学習で河内貯水池まで歩き、川の生き物を見付けたり、触れ合ったりすることを通して、川に親しみ、大蔵の自然と関わることのよさを実感することができた。

学び方の面では、「みんなで考えをまとめていく」に価値を感じ出している児童は増えてきている。しかし、身近な事象に対して「なぜ」といった疑問を抱いたり、その疑問を積極的に解決したりしようとする姿勢はあまり見られない。また、様々な場面で自分の考えを分かりやすく伝える力は十分とは言えない。

教材の価値（教材観）

本単元では、校区に流れる大蔵川を取り扱う。大蔵川は、川に入って遊べる、魚や植物などが多く生息するなど、児童にとって魅力的な川である。また、学校の前を流れている川であるため、問題解決の過程において川に行き行って繰り返し調査することができ、体験を通じた学びができる。いつも何気なく見ていた身近な川でも、繰り返し現状を調査したり、大蔵川のよさを守ろうとする地域の方の思いに触れたりすることで、川に対する見方や考え方が変わっていき、目の前を流れる川が違って見えるようになる。その中で、多くの生命があることに気付いたり、互いに支え合って生きていることを実感したりすることも期待できる。

また、国語科で学習した話し合いの仕方やインタビューの仕方等の言語活用能力や、道徳や特別活動と総合的な学習の時間とが互いに補完し合うものとして位置付けることにより、総合的な学習の時間の学びや各教科等の理解が相互に深まりそれぞれの学習がより充実していくことをねらっている。

方策・方法（方法観）

第一次では、地域行事を生かし、児童が自ら課題を見出し、探究していこうという課題意識をもてるようにするとともに、次の活動へとつなげていくことを目指す。

第二次では、各教科・領域での言語活動を生かし、手段・場・方法を工夫した追究活動を効果的に位置付ける。また、調査結果や専門家の話について、意見を出し合い検討することで、大蔵川に対する自分の見方や考えを一層明らかにしていく。

第三次では、二次と同様に各教科・領域での言語活動と関連を図るとともに、学年で付けたい力を明確にした評価規準を設ける。また、国語科の学習を生かし、自分たちが調べた「大蔵川のよさ」を地域の方に伝える方法を考えたり、調査内容が「大蔵川のよさ」を立証できるものであるかどうかを、友達と整理したり分析したりし、意見を出し合い、検討する。さらに、各グループの中間発表を聞いて、表現内容や表現方法についての感想や改善点を話し合う場を設定し、地域の方に大蔵川のよさや地域の方や自分の大蔵川への思いがよく伝わるかという視点で感想や改善点を話し合う。その後、地域の方に発表し、大蔵川のよさについて話し合ったり、称賛してもらったりすることで、地域に対する愛着の気持ちをもてるようにする。

3. 目指す子ども像

- 自分たちの生活と大蔵川の自然との関わりに関心をもち、「大蔵川のよさ」を進んで調べ、見つけたよさを意欲的に発信しようとする子ども。
- ◎ 課題解決や探究活動に主体的に取り組み、自分たちにできることを考え、実践しようとする子ども。
- 発表する相手や目的を意識して伝え、それら大蔵川的环境について、比較・関連・統合させながら考える子ども。
- 自分の考えを結論付け、学習成果を実感するとともに、大蔵川に対して保護活動を実践しようとする子ども。

4. 単元目標と評価規準

	目 標	評 価 規 準
問題解決への 関心・意欲・態度	○ 自分たちの生活と大蔵川の自然との関わりに関心をもち、「大蔵川のよさ」を進んで調べ、解決しようとする。 ○ 大蔵川のよさを地域の方などに、意欲的に発信しようとしている。	- ア 自分たちの生活と大蔵川の自然との関わりに関心をもち、「大蔵川のよさ」を進んで調べ、解決しようとしている。（行動観察・ワークシート） - イ 大蔵川のよさを地域の方などに、意欲的に発信しようとしている。（行動観察・ワークシート）

学び方や 問題解決の力	○ 自ら見付けた課題について、追究する方法を考えたり、効果的に情報を集め、整理・分析したり、まとめ方や発表の仕方などを工夫したりしながら、課題解決や探究活動に主体的に取り組むことができる。 ○ 地域の方との交流や大蔵川に対する思いを聞く活動を通して、自分たちにできることは何かを考え、実践しようとする目的意識をもつことができる。	ア 自ら見付けた課題について、追究する方法を考えたり、効果的に情報を集め、整理・分析したり、まとめ方や発表の仕方などを工夫したりしながら、課題解決や探究活動に主体的に取り組むことができている。 (発言内容・行動観察) イ 地域の方との交流や大蔵川に対する思いを聞く活動を通して、自分たちにできることは何かを考え、実践しようとする目的意識をもつことができている。 (発言分析・行動観察)
考える力 ・表現力	○ 「5年1組大蔵川大研究」を発表する活動では、発表する相手や目的を意識して、伝えたいことを自分の言葉で伝えることができる。 ○ 調べて分かったことを話し合い、大蔵川に生息する生物や植物など大蔵川の環境について、比較・関連・統合させながら、思考を深めていくことができる。	ア 「5年1組大蔵川大研究」を発表する活動では、発表する相手や目的を意識して、伝えたいことを自分の言葉で伝えることができている。 (発言分析・行動観察) イ 調べて分かったことを話し合い、大蔵川に生息する生物や植物など大蔵川の環境について、比較・関連・統合させながら、思考を深めていくことができている。 (資料・行動観察)
自分への 気付きと 生き方	○ 課題に対する自分の考えを結論付け、学習成果を自己評価できる。 ○ 大蔵川を自分たちの川として意識し、愛される大蔵川を自分も大切にしようとする保護活動を実践しようとするができる。	ア 課題に対する自分の考えを結論付け、学習成果を自己評価することができている。 (発言内容・行動観察) イ 大蔵川を自分たちの川として意識し、愛される大蔵川を自分も大切にしようとする保護活動を実践しようとしている。 (ワークシート・行動観察)

5. 学習指導計画（総時数30時間）

第一次 大蔵川とわたしたち（5）

- 1 「大蔵川」をテーマに、昨年までの学習で調べたことや知っていることを話し合う。①
- 2 大蔵川クリーン作戦をする。③
- 3 大蔵川清掃をして気付いたことについて整理し、調べたいことを話し合う。①【関】ア

学習問題

わたしたちの大蔵川ってどんな場所なのか調べよう。



第二次 大蔵川のよさについて調べよう（11）

- 1 グループिंगをし、「企画・計画会議」を行い、活動内容を決める。③
- 2 大蔵川について調べる計画を立てる。②
- 3 調べ活動を行う。各⑥【学】ア・イ

【大蔵川の歴史グループ】

- ・大蔵川は昔、鉄道の線路だったのか？
- ・鉄道ができて町はどう変わったか？
- ・大蔵川ができて何年か？
- ・駅がかわになる前は、
- ・大蔵川の昔からの姿で、今残っているものと残っていないもの。
- ・川ができて今までで、川が変わったことは？
- ・大蔵川であった大きな災害
- ・（仲良し橋の）橋の名前の由来
- ・大蔵川と板櫃川の違い
- ・戦国時代等の時、どんな場所だったのか？
- ・鉄道ができて人の生活はどう変わったか？

【大蔵川の魚グループ】

- ・魚はどうやって危険を察知するか？
- ・どのような場所に魚がいるか
- ・魚の飼いは？
- ・魚の寿命は？
- ・魚の産卵場所は？

【大蔵川とそこに住む人々グループ】

- ・大蔵川のようにすについて嬉しいと感じること
- ・大蔵川にすんでいる理由
- ・住んでみて嬉しかったこと
- ・住んで困ったこと
- ・大蔵川付近の散歩など、やってみたいこと
- ・今、実際、行っていることは？
- ・やってみた感想
- ・クリーン作戦の参加者の人数は今と昔で違うのか？
- ・大蔵川を守り続ける理由

【大蔵川の植物グループ】

- ・どんな所にどんな植物があるのか？
- ・大蔵川に食べられる植物はあるのか？
- ・大蔵川の水中の植物は？
- ・大蔵川に危険な植物はあるのか？
- ・大蔵川に珍しい植物はあるのか？

【大蔵川グループ】 ・流れの外側と内側の川の流れの速さの違いは？ ・大蔵川のゴミの量と種類は？ ・大蔵川の水質は？ ・大蔵川の日陰と日向の水温は？ ・大蔵川の深さは？	【大蔵川で行われる行事グループ】 ・大蔵川では、どんな行事があるのか？ ・（答えにあった）行事は、なぜ、行っているのか？ ・行事を企画した人はだれか？ ・蛍祭りをして大蔵がどう変わったか？ ・蛍祭りではどのようなことをしているか？ ・蛍祭りはいつはじまったのか？ ・クリーン作戦はいつはじまったのか？ ・クリーン作戦をやる前と今で、大蔵川はどう変わったか？ ・ほかにはどんな行事を行いたいのか？ ・大蔵川についてどう思うか？
↓	

第三次 「大蔵川のよさ」について調べたことをまとめよう。（14）

- 1 調べたことをグループで新聞などにまとめる。 ④【関】イ
- 2 **各グループの中間発表を聞いて、感想や改善点を伝える。** ②【考】ア【学】ア・・・・（本時）
- 3 友達からのアドバイスを基に、改善点について修正を加える。④【考】イ
- 4 大蔵川のよさを地域の方に伝え、大蔵川のよさについて話し合う。④【生】ア・イ

6. 他教科等との関連

関連場面	教科等	単 元	内 容
第一次 第2～4時	道 徳	(高3-(2)自然愛, 環境保全)	「もったいない」 「チョモランマ清掃登山隊」
第二次 第6～11時	理 科	「生命のつながり(3)」 「流れる水のはたらき」	ア 生き物の生態や生活環境に興味関心をもって追究する。 ア 流水のはたらきと護岸の様子を関連付けて考える。
	国 語	『きくこと』について考えよう～きいて、きいて、きいてみよう～ 「活動を報告する文章を書こう」 「自分の考えをまとめて、討論しよう～インターネットを使って調べる」	ア 質問をあらかじめ準備して聞いたり、その場で話に合った質問に変えて、質問したりする。 ア 項目を分けて、箇条書きで、短い文章で書く。 ア 自分の主張点を先に言い、その後に、相手に伝わるように理由を言う。
	道 徳	(高4-(7)郷土愛)	「わたしたちの町って」
第三次 第5～6時	国 語	「理由づけを明確にして説明しよう～グラフや表を引用して書こう～」	ア グラフや表を引用して、理由付けを明確にして説明する。

7. 本時の学習 平成26年10月21日（火曜日） 5校時 於：多目的教室

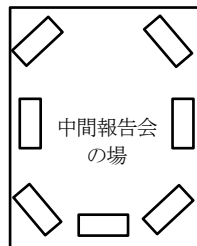
(1) 主眼

- ◎ 各グループのまとめた内容をアドバイザーに報告し、よりよいまとめにするためにもらったアドバイスを交流する活動を通して、自分のグループや他のグループの資料を見直す視点をもつことができるようにする。
- 自分たちの調べたまとめや内容が「大蔵川のよさ」であるか、また、それらを伝える表現方法になっているかという視点で意見交換を行う活動を通して、集めた情報を目的に沿って、効果的に表現するための整理・分析の仕方に気付くことができるようにするとともに、それに伴った再調査への意欲を高めることができるようにする。

(2) 展開

主な学習活動	支援・指導上の留意点（評価規準・評価方法）	他教科との関連
1. 本時のめあてを確認する。	○ 本時学習のめあてを確認することができるようにするために、学びの足あとを振り返る。	
めあて 中間報告会をして、よりよいまとめになるように、アドバイスを出し合おう。		
2. アドバイザーにプレ発表をする。 (1) アドバイザーの紹介と活動内容を知る。 (2) 発表する。	○ スムーズな活動ができるようにするために、グループごとの担当のアドバイザーを紹介し、その場へ移動してもらい、活動の流れを知らせる。 ○ よりよい「まとめ」ができるようにするために、アドバイザーには、厳しく批評していただくとともに、内容や表現方法や価値を具体的にアドバイスしていただくようにする。 ○ より効果的な資料の分類・整理をすることに価値を感じることができるようにするために、アドバイザーの意見をまとめると「価値性」「説得性」「妥当性」に当たることを声掛けする。	5年 国語 「理由づけを明確にして説明しよう～グラフや表を引用して書こう～」 【身に付けたい知恵や技】 ・ グラフや表を引用して、理由付けを明確にして説明する。
3. アドバイスの交流をする。 (1) アドバイザーからもらった意見を交流する。 (2) アドバイスを整理し、見直す視点を理解する。	○ アドバイザーからもらった意見に共通点があることに気付くことができるようにするために、アドバイザーからいただいたアドバイスを発表するようにし、そのアドバイスを整理して板書する。 ○ 資料や発表を見直す視点を明確に位置づけ、中間報告時の見直す視点として活用することができるようにするために、「価値性」「妥当性」「説得性」とまとめる。	
妥当性：掲示されている写真や資料、グラフや表はテーマ（各班の内容）を伝えるものとなっている。 説得性：聞き手を納得させる情報の量・質となっている。 価値性：（発表やまとめの中に資料からの考察があり、それが）「大蔵川のよさ」を伝えるものといえる。		
4. 中間報告会を行う。 (1) 全体発表を行い、意見交換を行う。	○ 話し合いの発表がスムーズに行えるようにするために、発表班の場所に聴衆班が方向を変えるように場を設定する。 ○ 3つの視点でアドバイスすることに価値を感じることができるようにするために、聴衆班の意見が、3つの視点のどのアドバイスに当たるものなのかを分類し、問い返すとともに、称賛する。 ○ 考えをつくり出そうとしていこうとする思いや、表出するよさを感じることができるようにするために、それぞれの考えがどのアドバイスに当たるのかを子どもたちに問い返す。	【学び方や問題解決の力】 効果的に情報を集め、整理・分析したり、まとめ方や発表の仕方などを工夫したりしながら、課題解決や探究活動に主体的に取り組むことができる。 （発言内容・行動観察）

この資料は、本当にこの意見を証明することになるかな？
もっとこんな資料もあったほうがいいんじゃないかな。



5. 感想を交流する。	○ この後の自分たちのまとめに対する付加・修正への見通しをもつことができるようにするために、いただいたアドバイスメモをもとに、感想を交流する。	
	今日は、「こんな資料もあるといいよ」ってアドバイスをもらったから、次の時間は、それについて調べようと思いました。	